



西宮市議会議員(6期23年目)

田中まさたけ

正 剛 市政・市議会報告



令和7年
9月発行
第76号

市政は市民のために。

活力ある文教住宅都市・西宮を取り戻す。

西宮市では、子供が14年間減少し続け、ついに総人口も減少し始めました。

公務員の利権を守るために経済成長や市民生活を犠牲にする政策は、変えなければなりません。

市政は、公務員や議員のものではなく、市民のものです。

皆様とともに「真の改革」を実現し、再び活力を取り戻すために、西宮市の実態をお伝えします。

掲載内容 ●現在の西宮市政の問題点 ●官民の給与格差の是正と経済活性化による財政改革
●待機児童が解消できないワケ ●部活動の継承と学校体育施設の地域開放に向けて

人件費は高く、公共施設はボロボロ。その上利用料負担は増加。

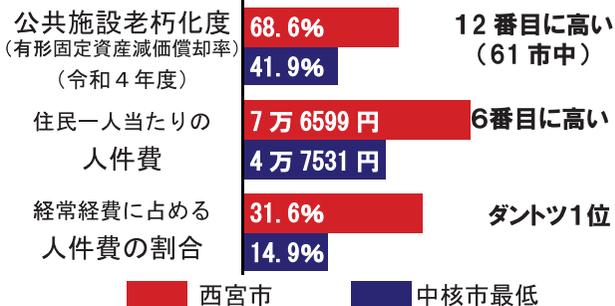
西宮市の人件費は、全国の中核市と比べて高く、令和6年度の**一般行政職(事務・技術職)の平均年収は約720万円**となっています。一方で、市民生活に欠かせない公共施設や道路・上下水道は老朽化が進み、計画的な更新ができていとは言えません。例えば、西宮市の公共施設の老朽化度合いを示す指標(有形固定資産減価償却率)は約69%と高く、全国の中核市の中でも12番目に老朽化が進んでいる状況です。つまり、**人件費は高止まりしているのに、まちの基盤となる施設更新がなおざりにされている**のです。

さらに市は、市民が参加料で負担することになる各種スポーツ大会の施設使用料を有償化するなど、**市民が気づきにくい形で負担増を進めています**。これは、**市民生活を犠牲にして職員**の利権を守る政治に他なりません。そこで私

は、令和7年3月議会の一般質問においてこの老朽化度と財政運営のあり方を改善するよう指摘しました。

今後、人件費の適正化によって生まれる財源を、公共施設の更新や住民福祉の向上に振り向け、**再び「活力ある文教住宅都市・西宮」を取り戻す**ため行動してまいります。

中核市 62市との比較 (令和5年度決算)



市民だけに負担を押し付ける政治は、一緒に変えていきましょう。

地域経済の活性化で、市内の雇用・所得・人口を増やす。結果、市税収入の自然増につなげることが政治の役割です。

財政
改革

●官民の給与格差の是正を

市職員（一般行政職：事務・技術職）の平均年収が約720万円（令和6年度）であるのに対し、民間の正社員は約530万円（令和5年）と、格差が生じています。**この差を放置し、経費削減や市民の負担増に頼るだけでは、財政は持続しません。**

●地域経済の活性化への転換を

だからこそ、公共施設の更新や老朽化対策などの投資的事業を通じて経済効果を生み出し、**市内の雇用や所得を増やす政策への転換が必要**だと考えています。私は、令和7年3月議会的一般質問で、その転換を提案しました。

●商工費の積極活用を

また、西宮市の「住民一人当たりの商工費」

は、中核市62市中57位、全国平均の約22%、最高額の3%となっています。つまり、西宮市は産業振興への投資が極端に不足しているのです。

そこで私は市議会で、**商店街振興や産業振興などの施策の実効性を高めるため、税収効果分析など証拠に基づく政策立案（EBPM）を実施し、取組みを強化するよう提案**しました。

平均年収・平均給与の比較

西宮市
正規職員
(令和6年度)

720万1千円
一般行政職（事務・技術）

民間企業
正社員
(令和5年)

530万3千円
国税庁「民間給与実態統計調査」

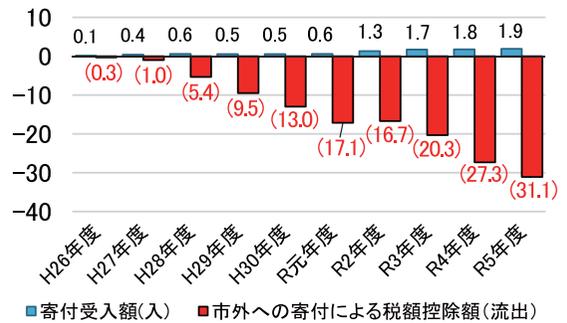
ふるさと納税の流出超過も財政悪化の大きな要因。ふるさと納税の流出超過は、市が産業振興を軽視してきた結果であると指摘。

西宮市は、**ふるさと納税で大幅な流出超過が続き、財政悪化の要因**となっています。これは、市が産業振興を軽視してきた結果と言え、明らかな失政です。そこで私は、令和7年3月議会一般質問で、甲子園球場との連携を強化し、ふるさと納税の増収につなげるべきだと指摘しました。

西宮の強みを活かせば、ふるさと納税の流出を抑えるだけでなく、「選ばれる西宮」へと転換できると考えています。甲子園球場に加え、歴史文化やスイーツを活かした施策で、市として、

多彩な魅力を発信していくべきです。

西宮市のふるさと納税の推移（単位：億円）



時代の変化に対応できてない市に対し、私は「提案する姿勢」を買います。

地域経済を活性化することは、市民の所得を増やし、税収を自然に増加させる最も確実な道です。

- 市役所業務を市内企業へ委託し、地域内で仕事と給与を循環
- 公共事業の効果を地域経済に波及させ、幅広い産業を支援
- 保育士・介護職の処遇を改善し、雇用の安定と安心を両立
- 商店街の振興と空き店舗の活用で、にぎわいを創出
- 兵庫県の産業振興政策との連携、制度活用

これらにより、西宮に雇用と活力を生み、将来世代に継承できる強い財政基盤を築くべきです。



少子化対策は、まさに活力を取り戻す最重要課題。 「子供の育ち」を支える教育・保育の環境整備が急務です。

保育
環境

待機児童が解消できないのは、明らかに市の失政です。

令和7年4月時点の待機児童は76名で、昨年より45名減少しました。これは、入所申請者が95名減り、入所枠を195名増やした結果です。

しかし、実際には1148名もの「利用保留児童」が存在し、希望しても保育所に入れない子供たちが多数残されています。

利用保留児童には、育休中や求職活動休止、企業主導型保育を利用、特定の園のみを希望している家庭が含まれます。

特に兄弟同園の希望は当然の願いであり、市が受け皿を整えるべき優先課題だと考えています。

利用保留児童	
利用保留児童	1,148名
育児休業中	183名
求職活動を休止	36名
企業主導型保育事業の利用	220名
特定の保育所等のみ申込み	633名
待機児童	76名



公務員の雇用維持のために、待機児童が犠牲にされた結果に。

●公立至上主義の弊害

私はこれまで、公立保育所の民間移管を進め、増える財源を保育士の処遇改善や受け皿拡充に充てれば待機児童は解消できると指摘してきました。

しかし、市が市立園の保護を優先するあまり、改革が進まず、長年、待機を解消できませんでした。

●子供の減少は思っている以上に深刻

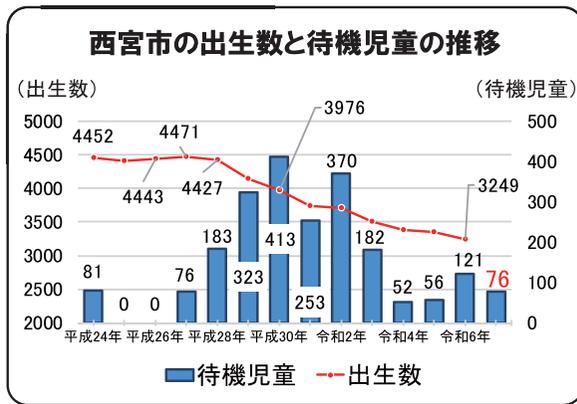
西宮市の14歳までの子供の人数は、平成23年の約7万3千人から令和7年には約6万人へと減少。出生数も平成28年以降減少し続け、年間で4471人(H27)から3249人(R6)に減少しました。

●一刻も早く解消すべき課題

晩婚化や未婚化など少子化の要因は多様

ですが、待機児童の解消はすぐに結果を出せません。

だからこそ、待機児童ゼロを即実現し、未婚化等への対応も含めて本気で少子化対策に取り組むべきです。



西宮に活力を取り戻すため、私は本気で少子化対策に取り組むべきと考えます。

少子化に歯止めをかけるには、自治体が地域の特性に応じて、積極的に対策を講じることが重要です。特に、

- 保育所・認定こども園の待機児童の解消と兄弟枠の創設
- 第2子以降の子育てへの給付金拡充を含めた手厚い支援
- 子育てひろばの拡充による親子が安心して集える居場所の整備
- 留守家庭児童育成センターの待機児童防止と放課後の居場所づくり
- 子供の育ちを支える幼児教育の充実と広報の強化

は、不可欠かつ迅速に実現するべき取組みだと考えています。



市立保育所が最後に民営化されてから22年が経過しようとしています。

大人の都合で、部活動を子供から奪うことは許されません。市民不在で強引な現在の西宮市政をただします。

**教育
環境**

西宮市は、来年度をもって中学校の部活動を終了し、突如新設された地域クラブ「プレみや」に移行する方針を発表しました。

現在の部活動は、市立中学校の生徒の8割が所属し、教育活動の一環として重要な役割を果たしています。それを「働き方改革という大人の都合」で急に切り替えれば、子供たちの活動の機会が奪われかねません。そこで、令和7年度新年度予算が否決され、一部内容が修正された6月補正予算に賛成しました。その補正予算には、以前に提案していた**小・中学校の体育施設予約システムの導入経費等が盛り込まれました。**

私は、「**プレみや**」が**全中学校で軌道に乗るまで、**現行の部活動を継続し、国の方針どおり、

令和13年度までに休日部活動を地域に展開できるように体制を整備することが本来の改革だと考えています。

今後の**最大の課題は、「プレみや」を利用する際の保護者負担の増大**です。指導者謝金や施設利用料の負担を保護者だけに求める仕組み（会費負担）には限界があります。ですので、**保護者負担を軽減できるよう、その財源を確保する仕組みも整える必要があります。**

今後も私は、「市民との対話なくして真の政策なし」をモットーに、子供たちの世代に誇れる活力ある西宮を取り戻すために行動してまいります。

「部活動の地域展開」に関する
田中まさたけの質疑の詳細はこちら⇒
をご覧ください！



	部活動(学校教育の一環として学校が実施)	「プレみや」クラブ(部活動地域展開)
参加者	通学している生徒	学校や地域に関係なく生徒が希望するクラブを選択
活動場所	通学している学校	学校や体育館などの公共施設、民間施設等
費用負担	用具や交通費などの実費	会費(運営費に充当)+用具や交通費などの実費

「約束」のかたち：市政報告・意見交換会を開催しています。是非ともご参加ください！

発行責任者

田中正剛 たなか まさたけ

昭和50年7月生まれ/大阪府立四条畷高等学校、神戸大学工学部卒業/元市議員事務所に4年間勤務した後、平成15年4月に西宮市議会議員選挙初当選（当時27歳）、現在6期目、総務常任委員会委員

■これまでに就任した市議会での主な役職
常任委員会委員長(5回)、特別委員会委員長(4回)、西宮市監査委員、阪神水道企業団監査委員、西宮市議会副議長、第88代西宮市議会議長(当時41歳)



「市民との対話なくして、真の政策なし。」

このチラシは、活動をご報告するだけでなく、市民の声を伺うきっかけとなる「広聴」のために発行しています。掲載内容以外のことも、ご意見・情報をぜひお寄せください。

また、市政報告兼意見交換会も、オンラインに対応しながら不定期で開催しています。

開催日程や会場などのご案内は、LINE公式アカウントからもお届けします。ご都合のよい日程でご参加いただけましたら幸いです。

こちらのQRコードをスマートフォンのLINEアプリで読み取って、是非ともご登録下さい。



LINE
公式アカウント